

第2節 八尾市内出土銅鏃について(第22・23図、第15表)

今回の調査では3C地区の第19層中から弥生時代後期に比定される銅鏃が1点出土した。本書において、八尾市内で出土した銅鏃(対象は弥生時代に限定)について整理することにする。弥生時代の銅鏃は八尾市内の発掘調査において、現在までに合計12点が出土している(現地調査時点)。その内、遺構内出土6点・包含層出土5点・不明1点である。銅鏃はすべて有茎鏃で型式は平基式5点・凹基式2点・凸基式1点・有翼鏃3点である。八尾市内では平基式・凹基式の銅鏃が多く出土しており、近畿地方でも同じような傾向にある。また、特異な点は鏃身の鏃部分に棒状の隆起が特徴の有翼鏃の出土比率が高いことが挙げられる。銅鏃の全長は平均3.7cmを測り、今回出土した銅鏃が全長5.0cmと最も大型である。銅鏃の法量を指数化した鏃身幅指数は平均約34.2で、亀井遺跡Ⅷb層出土銅鏃(第23図-6)が52と高い数値を示している。

第15表文献

- 1 寺川史郎 1980 『亀井・城山 寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書』財団法人大阪文化財センター
- 2 田代克巳他 1982 『恩智遺跡』 瓜生堂遺跡調査会
- 3 高島 徹他 1982 『亀井』 財団法人大阪文化財センター
- 4 宮崎泰史 1984 『亀井遺跡Ⅱ 寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』 財団法人大阪文化財センター
- 5 高萩千秋 1990 『(財)八尾市文化財調査研究会報告26 小阪合遺跡』 財団法人八尾市文化財調査研究会
- 6 安井良三・成海佳子他 1991 『(財)八尾市文化財調査研究会報告31 跡部遺跡発掘調査報告書』 財団法人八尾市文化財調査研究会
- 7 原田昌則 1996 「Ⅲ萱振遺跡(第13次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告52 萱振遺跡』 財団法人八尾市文化財調査研究会
- 8 西村公助 1997 「Ⅰ跡部遺跡(第10次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告58』 財団法人八尾市文化財調査研究会
- 9 原田昌則 2004 「Ⅱ跡部遺跡(第23次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告81』 財団法人八尾市文化財調査研究会

圖 版